

湘南鎌倉総合病院 腎臓病総合医療センター

日高寿美, 小林修三

施設概要

当院は鎌倉市にあり、1988年に病床数368床で開院しました。以後、病床数は漸増し、現在は619床となっています。その中で、血液浄化療法を行う血液浄化センターは、病院の3階にあり、個室6床を含む57床のベッドを有します。加えて、ICUや病棟への出張透析、持続的血液濾過透析(CHDF)なども行っています。また、血漿交換療法やLDLアフェレシス治療など種々のアフェレシス治療も行っています。

当センターに登録されている維持血液透析患者数は約180名、腹膜透析患者が約70名、そのうち腹膜透析と週1回の血液透析を施行している患者が約15名です。さらに、急性腎不全患者さん、および他院の維持血液透析患者さんが、外科・心臓血管外科などの他科に入院された場合の血液透析も常時約20名程度、治療を行っています。新規の血液透析の導入は年間約60例、腹膜透析導入は約20例あります。

医師9名、看護師19名、看護助手3名、臨床工学技士7名、事務職3名のほか、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、患者さんの送迎を行う運転手の方なども血液浄化センター業務に携わり、チームとして働いています。



写真 湘南鎌倉総合病院 外観

施設の設備

ハード面の特色としては、2011年の東日本大震災後の計画停電を経験した際、自家発電に自動的に切り替わりますが、それが頻回におこることにより機器の誤作動がおこる可能性を考え、100kVAの大きな無停電電源装置(UPS)を設置しています。それにより、安心して血液浄化療法を施行できる環境となり、災害時の多施設からの透析の受け入れも積極的に行うことができる環境となっています。

オンラインHDF対応機種は24台となっています。

施設の特徴

2012年4月に腎移植外科が創設されたことを契機に、腎臓病総合医療センターが立ち上げられ、小林修三院長が腎臓病総合医療センター長になりました。その下に血液浄化部(血液浄化センター)、腎免疫血管内科、腎移植外科の3つが並ぶ構造となり、腎炎・腎不全の管理から透析や腎移植治療まで幅広く活動できるようになりました。

当施設では、透析患者の心血管障害に関する臨床研究を数多く行っており、さらに再生医療にも積極的に関与しています。透析患者さんでは、末梢動脈疾患(PAD)により下肢潰瘍・壊疽など重症下肢虚血(CLI)